

# 京の喫茶・カフェ巡り #1

これまでのシリーズの「食の世界」を引き継いだ新シリーズでは、私たちが日常的に親しみ、また癒しの場とする人気の喫茶・カフェを巡ります。初回は、京都市内で最も古い喫茶店「京大北門前カフェ進々堂」です。



名物の「カレーパンセット」(1,000円)

長い歴史を重ねた建物に一歩足を踏み入れると、ガーゴイル(魔除け)の置物や、壁飾りの木製レリーフなど、西洋のエッセンスを感じさせるものが静かに存在感を放っています。レリーフには、クリスチャンであり詩人であった創業者の続木齊さんが愛したワーズワースの詩があります。齊さんの曾孫で、4代目店主の川口聡さんは、「虹を見たときの感動を、年老いても持ち続けたい、というような内容です」と教えてくれます。



木製レリーフには、イギリスの詩人ウィリアム・ワーズワースの詩“The Rainbow”。扁額「静慮」は、京都大学第23代総長 長尾真氏によるもの。

創業者は、パリに留学してパンづくりを学び、1913年にベーカリー「進々堂」を始めました。またパリの学生街で見たカフェをつくろうと、1930年、京都大学農学部横に喫茶店「京大北門前カフェ進々堂」を開業しました(現在は別法人)。ハイカラな店は当時の人々を驚嘆させました。

カフェは、創業者の精神とともに受け継がれ、「できるだけ当時のものを残しています。煉瓦や

漆喰など、同じものがなくなってきたこともあり、大事にしています」と川口さん。創業以来、日本の未来を担う若者を支えたい気持ちが息づいており、今も「京大第二図書室」の別名を持ちます。「ノートと鉛筆がパソコンに代わっただけで、勉強されたり、本を読まれたり、基本的に学生さんは同じスタイルです」

長机と椅子は木工家の黒田辰秋さんによるもので(後に人間国宝)、12人掛けの長机8卓のうち、2卓は学生用自習席(13~18時まで)となっています。奥にはテラスもあり、広々とした印象です。近所の人々や、旅行者なども来店します。とりわけ久々に訪ねてきた人たちからは「お店が変わらないままあって嬉しい」と喜ばれています。

フランスからの旅行者に、家族経営であることを伝えると、「それは素晴らしい。最近ではフランスでも家族で頑張っているお店が少なくなっているんです」と喜ばれたそうです。



学生のための割引サービスや限定メニューもありますが、一般の方の場合、コーヒーは500円(以下、価格は税込)。浅煎り豆と深煎り豆を混ぜており、やや酸味が強いのが特徴です。デイスカッションが白熱してフレッシュミルクを入れ忘れ、コーヒーが冷めてしまうこともあるため、フレッシュの有無はオーダー時に尋ねられ、必要ならフレッシュ入りで提供されます。アイスコーヒー(600円)をはじめ、さまざまなコールドドリンクが用意されています。

おすすめのモーニングセットは、バタートーストとミニサラダとコーヒーのセット(750円)です。ランチメニューは夕方までオーダーできます。名物は「カレーパンセット」(1,000円)。これは、カレーパンではなく、カレーのルーにパンを付けながら味わえるもので、ミニサラダ、ドリンク(コーヒーまたはオレンジジュース)が付きます。ボリュームを求める声から、先のカレーパンがカレーライスに代わったセット(900円)も生まれました。ちなみに、ルーには淡路産の玉葱が使われ、出町にある精肉店“むら瀬”のもち豚が入っています。米は国産です。

秒針がゆっくり進むような店内で、老若男女のお客様が心地よく過ごしています。

「店のしつらえなどに手を加えることはできませんけれど、メニューには新しいものも加えていかなければならないと思っています」。カフェの開業100周年も遠くありません。



## 進々堂 京大北門前

京都市左京区北白川追分町88

TEL 075-701-4121

営業時間 10:00~18:00(ラストオーダー17:30)

定休日 火曜日

京都市バス「百万遍」「京大農学部前」バス停より徒歩約5分

叡山電鉄叡山本線「元田中」駅より徒歩約9分

京阪本線「出町柳」駅より徒歩約13分

